



園だより

文京区立第一幼稚園
令和3年度7月号

URL <http://www.bunkyo-tky.ed.jp/dai1-kg/>

意欲的に体を動かす子供たちに

園長 田村 秀子

梅雨の晴れ間に夏の空が広がるようになりました。日差しも強くなり、緑の木陰が嬉しい季節です。保育室には子供たちが作った七夕の笹飾りが風に揺れ、楽しく涼し気な雰囲気醸し出しています。これからたくさんの願いごとが飾られることでしょう。

さて、第一幼稚園では今年度、教員が運動遊びに視点をあて、環境の工夫を学んでいくことにしました。園では遊びの場が保育室、土の庭、舗装園庭、遊戯室、屋上と様々に分かれ、見通しにくい環境にあるために、2年間継続してどのように場を活用して遊びを深めていくかを研究し、工夫を重ねてきました。教員が自分の学級だけでなく、子供たち皆のことを気かけ、見守ったり、声をかけたり、手助けしたり、遊びの様子や工夫を情報共有したりしていくことで、コロナ禍でも様々な場を使った遊びが活発に行われるようになりました。今年度はさらに、子供たちが様々な体の動きを経験し、意欲的に体を動かす子供たちに育つよう、興味をもって遊びに取り組みめる物や場などの環境を、工夫していこうとしています。

年少組では、滑り台や巧技台を廊下や保育室に置くと、喜んで滑ったり、よじ登ろうとしたりしています。まだ頭が大きく、視野も狭いために、転びやすかったり、ぶつかりそうになってもよけられなかったりしますが、たくさん遊ぶことによって自分の体のイメージをもち、向きを変えたり、バランスをとったりし、自分の体をコントロールできるようになっていきます。コンビカーを両足でこいだり、築山から走り下りたり、マットの上で転がったりなど、様々な動きを繰り返し楽しめるようにしたいと思います。



年中組も、まだ手や腕で体を支えるのが難しく、すぐに止まれないこともあります。体をいろいろ動かして体操をしたり、腕の力でよじ登る経験、ぶら下がる経験、バランスをとる経験などを楽しんでいます。廊下や遊戯室、園庭、屋上を活用して、思い切り動ける場や、ゆっくり動ける場をつくると、自分なりのやり方で楽しんでいます。会議室に巧技台のはしごを組み立て、ぶら下がって遊ぶ経験を取り入れた学級もありました。



年長組は、自分でやろうと決めたことや、やってみたいことに対して、真剣に繰り返し取り組む姿が見られるようになってきました。ある日の鉄棒では、逆上がり挑戦する子、足掛け回りをする子、前回りをする子など、自分ができるようになりたいことに対して繰り返し何度も頑張る姿が見られ、その姿が真剣で、嬉しく思いました。友達の刺激も受け、なりたい自分のイメージをもって頑張るようになっていくと思います。友達の動きに合わせてスピードを調整しながら追いかけたり、ボールを投げたり、よけたりキャッチしたり、友達と動きを合わせて動いたり、力を出して運んだり引っ張ったりなど、様々な経験ができるよう、物や場の工夫や友達と一緒に進める活動の工夫をしていきたいと思っています。



子供は自分から「やってみたい」と思った時に力を発揮します。物や場、教師の動きや友達の動きに刺激を受け合える環境を工夫して、意欲的に体を動かし、たくましく遊ぶ子供たちを育てたいと思います。